

令和5年度第1回幕別町次世代育成支援対策協議会会議録

1 日 時

令和6年2月8日(火) 19:00~20:21

2 場 所

幕別町役場 2階 2-A、B会議室

3 出席委員 8人

高橋委員、西垣委員、横山委員、伊澤委員、今泉委員、前川委員、杉山委員、三石委員

4 欠席委員 7人

奥村委員、松里委員、喜多委員、小笠原委員、岡田委員、小俣委員、西川委員

5 町出席者 9人

事務局：榎木保健福祉部長、川瀬こども課長、佐々木こども支援係長、鈴木保育係長、菅原福祉係長、牧田発達支援センター保育長、山元主査、阿部主事、佐々木

6 配布資料

資料1	第2期幕別町子ども・子育て支援事業計画評価シート
資料2-1	令和5年度「子どもの権利」絵画コンテストの実施について
資料2-2	発達支援センター忠類分室の開設について
資料3-1~3	第2期幕別町子ども・子育て支援事業計画の見直しについて
資料4	第3期幕別町子ども・子育て支援事業計画の策定について
資料5-1~2	ニーズ調査の実施について

7 内 容

(1) 開 会

こども課長より、欠席委員について報告。

(2) 協 議 (進行：横山会長、説明：佐々木係長)

① 第2期幕別町子ども・子育て支援事業計画の進捗状況及び評価について

* 達成状況で「拡大の◎二重丸」のもの及び達成度合が「目標を下回るC評価」となっているもの、令和6年度に事業の拡大を予定しているものについて説明を行った。

○ 全体の達成状況

今年度においては、新型コロナウイルス感染症の分類が、2類から5類に引き下げられたことに伴い、コロナ禍前の内容で事業を実施できるようになったことから、目標を下回る事業が若干減り、目標どおりの評価が増えたことが、評価に現れたものだと考える。

- 認定こども園整備事業 (No. 1)

中央保育所とわかば幼稚園の園児少人数化等に伴い、令和6年度から中央保育所の施設を利用して、保育所型の認定こども園へ移行するため、6月の定例会において「幕別町立認定こども園条例」の制定、関係条例の改正を行い、11月には、新入園児の募集のほか、北海道への認可申請を行っており、今年度中に認可決定される予定である。
- 地域子育て支援拠点事業 (No. 12)

満3歳児で入園する児童の増加により、2歳児の利用が激減していたことから、0、1歳児の開放事業の回数を増やしたことに加え、令和5年度からベビーマッサージを導入したことにより0歳児の利用が大幅に増加した。
- 一時預かり事業 (幼稚園型) (No. 13)

令和6年4月に認定こども園が開園することにより、これまで行っていた平日の一時預かりに加え、休日(土曜日)の対応が可能となる。
- 病児・病後児保育事業 (No. 15)

札内青葉保育園において、平成22年度から実施している病気の回復期にある児童を受け入れる病後児保育に加え、令和5年度より、同保育園において医療的ケア児保育を行っている。
- 利用者支援事業 (No. 20)

これまで実施していた「来室相談」の呼び名を改め「ぬくぬくの日」とし、開放事業・あそびの広場の延長線上に位置づけ、より気軽に相談できる場を設けた。
- 産前産後サポート事業 (ママカフェ) (No. 43)

昨年度から実施しているママ同士のお話会において、令和5年度より、新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことから、試食を取り入れ、参加者から好評を得ている。
- 思春期保健対策事業 (No. 45)

主に性教育に関する事業を学校教育課と保健課で行っており、保健課においては、令和3年度以降、中学校から事業の依頼がなかったことにより、未実施となっている。
- 小児保健医療の充実・確保 (No. 46)

これまで中学校卒業までの児童を対象にしていたものを令和5年10月から高校生(18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者)までに拡大した。

* 子ども医療費助成事業 (No. 47)、ひとり親家庭等医療費助成制度 (No. 55) も同様に高校生まで拡大。

○ 乳幼児ふれあい体験事業 (No. 49)

こども課では、中学生が町立の保育所での職場体験を実施し、保健課では、高校生を対象に「乳幼児ふれあい体験」を授業の一環として行っていたが、令和3年度以降、高校から依頼がないことにより、未実施となっている。

○ 子どもの権利の普及・啓発 (No. 50) 【資料2-1】

子どもの権利に関する条例が施行されてから10年目を迎えたことを記念して始まった絵画コンテストが今年度で5回目の実施となり、町内の小学校7校から242点の作品の応募があった。昨年12月に横山会長と岡田副会長に審査をしていただいて、最優秀賞1点と優秀賞4点を選定し、百年記念ホールのギャラリーで2月1日から9日まで作品展を開催した。

絵画を描くことで、子どもの権利について考えていただく機会となるよう、来年度以降も継続して実施する。

○ 発達支援センターの機能充実 (No. 61) 【資料2-2】

令和5年度から、道の指定を受け事業を実施する多機能型事業所（事業化）に移行し、療育の量を拡大したに加え、心理士を2名体制にし、増加する発達検査に対応したほか、療育対象外になった児童に対しても、ニーズに応じて、発達相談を実施するなど柔軟に対応しているなど、支援体制を整えることができたことで、忠類・駒畠地区の療育の量の確保と連続的な支援を行えるよう忠類分室の開設（令和6年4月予定）に向けて準備を進めている。

○ 仕事と子育ての両立支援事業 (No. 72)

事業内容にある「休日保育等の体制の整備」について、保護者からのニーズがないことや、保育士が不足していることから、実施に至っていないため、目標を下回るC評価としている。

今後においても、保護者からのニーズを把握し、必要に応じて検討を行う。

□質疑

○ 病児・病後児保育について、今後札内青葉保育園以外の施設においても実施していく予定はあるのか。(横山委員長)

⇒ 札内青葉保育園のみの実施で、利用希望があった児童の受け入れができていることから、現時点では拡充の予定はない。(鈴木係長)

○ 病児の範囲はどのようなものになるか。(前川委員)

⇒ 病後児は「病気の回復期にあるが、まだ集団に入ることができない児童」、病児は「現在病気（発熱等）になっている児童」であり、病後児保育は札内青葉保育園で実施しているが、病児保育については、町内施設において実施している施設はない。

また、医療的ケア児は「医療的サポートがないと集団で適切に保育ができない児童」をいい、今回札内青葉保育園は、医療的サポートの体制が整った

ことで、医療的ケア児の入所を受け入れることができたものであり、ほかの施設においてもニーズがあれば受け入れを検討するとは思いますが、現時点でのニーズは札内青葉保育園のみとなっている。(鈴木係長・牧田保育長)

- 思春期保健対策事業の対象年齢はどの年齢層としているのか。(三石委員)

⇒ 中学生を対象年齢としている事業ではあるが、要望があった際には、小学生でも高校生でも対象としている。(川瀬課長)

- 子どもの権利絵画コンテストについて、実際に絵画を見させてもらったが、自分の読み取る力が弱いのか、子ども達が子どもの権利についてどのように考えて描いたのか読み取れないことがあったため、可能であれば、絵画の提出の際に権利についてどのように考えたかなどコメントを添えてもらうようなことはできないだろうか。(三石委員)

⇒ 自分も同じことを思ったことはあるが、出展していただいている子ども達に負担を求めることで、出展数が減る可能性があると思う。(横山会長)

- 仕事と子育ての両立支援事業に関わって、幕別町において休日保育の要望はあるのか。(前川委員)

⇒ 土曜日においては、現在も受け入れは行っているところであり、日曜日の保育の要望については、現時点ではないが、今後、第3期の計画を策定するにあたって、ニーズ調査を実施する際に、日曜日保育のニーズを確認する質問もあるため、その部分で確認していきたいと考えている。(鈴木係長)

- ② 第2期幕別町子ども・子育て支援事業計画の見直しについて【資料3-1~3】
内閣府の指針に基づく、見直しの要否の基準に基づく判定として、計画上における保育の「量の見込み」と「実績値」について、認定区分ごとの数値の乖離が10%以下であったこと、待機児童が発生する見込みがないこと、目標値を超える施設整備を行った年度がないことから、令和5年度においても見直しを行わないこととするが、令和6年度に幕別認定こども園の開園に伴い、確保方策(定員数)が変更となることから、計画における該当箇所の変更を行う。

- ③ 第3期幕別町子ども・子育て支援事業計画の策定について

【資料4、5-1~3】

子育て支援を推進することを目的に、子ども・子育て支援法に基づき策定した「第2期幕別町子ども・子育て支援事業計画」が令和6年度をもって計画期間が終了することから、令和7年から5か年を計画期間とする「第3期幕別町子ども・子育て支援事業計画」策定する。

策定にあたっては、子ども・子育て支援法において、計画の中に教育・保育、子育て支援事業の量の見込みをについて定めることとされていることから、現状

の分析、サービスのニーズの量の推計を把握するためにニーズ調査を実施する。

なお、計画の内容についての協議は、量の見込みの算出に時間を要する予定であること、現委員の委嘱期間が令和6年7月に満期を迎えることを踏まえ、令和6年7月以降に新委員になる方と協議を進めていきたいと考えている。

□質疑・意見

- ニーズ調査の回答について、インターネットは活用しないのか。(三石委員)
⇒ 前回同様に紙媒体のみでの実施と考えている。(佐々木係長)
⇒ より回答率を上げるためにも今回の調査だけではなく、どの調査においてもインターネットの活用を検討して行ってほしい。(三石委員)
- ニーズ調査の質問の中で「幕別町で実施していない事業もある」と記載してあるが、実際にどの事業が実施されていて、どの事業が実施されていないかわからなかったのが、わかるようになれば良いと思った。(三石委員)

(3) その他

- スマイルパークで暗くなるまで少年団活動が行われており、暗くなった際は保護者が自前の照明を持参し活動しており、町として照明等を設置することで、少年団活動のほかにも地域で活用できる場になると思うが、どうだろうか。(高橋委員)
⇒ このような意見があったことを事務局を通して、町の担当部署に伝えてもらうこととする。(横山会長)
- 今年度中に会議を開く予定はないが、突発的な案件があった際には、会長、副会長と相談した上で決定し、案内を行う。(佐々木係長)